

5. 減災対策・流域治水における意見交換

テーマ

「減災や流域治水に関する取り組みや工夫した取り組みについて」

芦別市

実施主体：芦別市

	流域治水プロジェクト2. 0	(概ね5年で実施する取組について)
対策区分	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項
対策内容	住民等を対象とした防災意識の啓発	

■令和7年度 取組内容

○防災講話

- ・ 4月15日 芦別地区栄養士会（備蓄計画、備蓄品等について）
- ・ 6月15日 中央町内会（避難所開設時に町内会が果たす役割、避難所資材等の作成）
- ・ 7月26日 芦別JCイベント（避難所資材等の作成体験等を協力）
- ・ 8月1日 みんなで介護を考える会（災害図上訓練）
- ・ 9月8日 三角山町内会（災害に備えて）
- ・ 9月16日 社会福祉法人 愛和福社会 星の広場（災害対策と日頃の備え）
- ・ 10月8日 社会福祉法人 愛和福社会 きらり（災害対策）
- ・ 11月14日 新城町町内会（避難所資機材の体験等）

○一日防災学校

- ・ 9月4日 上芦別小学校（防災かるた、新聞紙スリッパ、段ボールベッド等作成体験）
- ・ 11月19日 芦別小学校（防災かるた、新聞紙スリッパ、マイタイムライン等作成体験）

○防災訓練

- ・ 8月5日 芦別市災害対策本部要員（道庁に講話を依頼：住民を守るために）
- ・ 8月28日 令和7年度芦別市防災訓練

次年度に向けた予定

- 町内会等からの依頼の機会を活用し、防災意識等の普及を継続
- 学校教育の場を通じ、防災教育の普及を継続
- 防災訓練を通じ、災害に対する気構えや避難行動、避難所開設等を行い理解促進を継続



【防災訓練】



講話：道庁



災害対策本部会議



段ボールベッド等作成体験



アルファ米で昼食

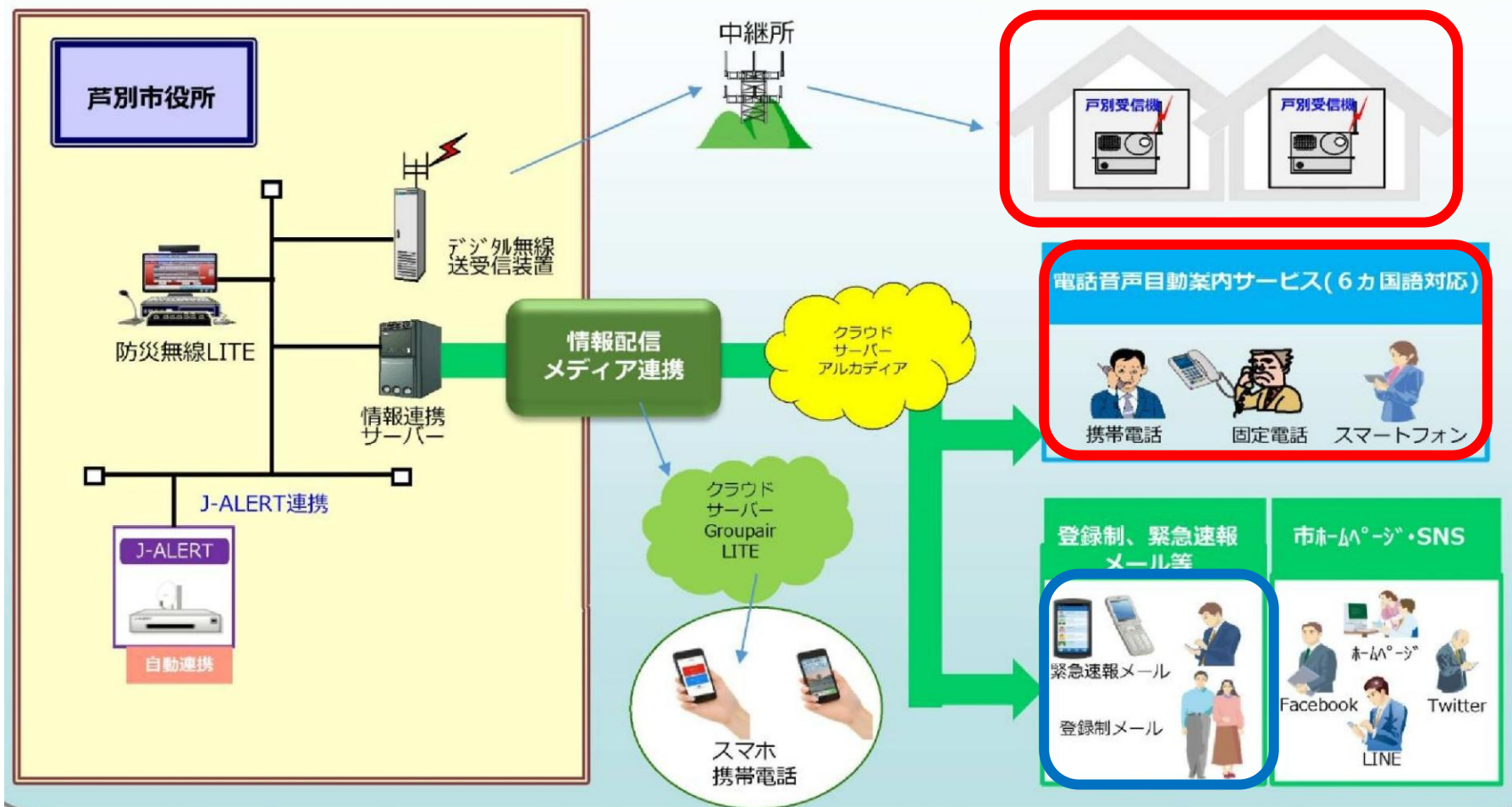
「防災行政無線（同報系）の携帯電話アプリ及び戸別受信機の整備

●概要

- ・市民への災害情報を効率的かつ確実に伝達するため60MHz帯の同報系防災行政無線を導入し、Jアラートと連携した情報提供、スマートフォンアプリや架電システムを活用して構築する。

※令和8年度：運用予定

※事業費：約4,400万円



赤平市

「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

	流域治水プロジェクト2. 0	概ね5年で実施する取組について
対策区分	被害の対象を減少させるための対策	平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項
対策内容	様々な世代の市民にとって災害に備える大切さを知ると共に避難時の手順などを学びながらの訓練参加となった。	

実施主体：赤平市

■令和7年度 取組内容

- ・ 今年度は幌岡・共和・住吉地区を対象に防災訓練を実施。（風水害想定）避難訓練等を通して、市民への防災等に関する普及啓蒙を図った。
- ・ 一日防災学校は市内小学校で実施。警察・消防機関からの協力等で児童に対し、訓練の実体験を通して災害に備える大切さを伝えた。

実施内容

赤平市総合防災訓練(8/23実施)
(市民及び市職員等関係者 125名参加)



実施内容

一日防災学校(8/28)
(段ボールベッド組立体験) (防災カルタ)



次年度も引き続き、市民に災害に備える大切さを伝えていく。防災訓練や出前講座、一日防災学校の機会等においても取組を模索すると共に、風水害等による災害からの被害軽減に繋がるよう取り組んでいきたい。

「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

実施主体：赤平市

	流域治水プロジェクト2. 0	(概ね5年で実施する取組について)
対策区分	被害の対象を減少させるための対策	平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項
対策内容	(避難経路等を基本) 避難所への移動等を確認すると共に会議の要望に基づき、(防災行政無線) 戸別受信機貸出の拡大取り組みを始め、緊急時の情報伝達手段の確保を図っている。	

■令和7年度 取組内容

- 一部地区の要望により、防災行政無線で使用の戸別受信機貸出に係る希望調査の実施を行い、情報伝達手段の確保を通して、風水害や土砂災害等からの避難等対策確保の一環を図っている。

実施内容

(希望地区)町内会長会議(11/6)
避難経路見直し等の話し合いから、戸別受信機貸出希望を受け実施に至る。



次年度においても発災時における市民の情報伝達手段を確保するため、標記の取組を継続するとともに、新たな取り組みを模索していく。

富良野市

「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

	流域治水プロジェクト2.0	(概ね5年で実施する取組について)
対策区分	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫を未然に防ぐ対策
対策内容	各種資機材に係る配置確認や継続した整備合わせて、土嚢作成訓練の継続	

実施主体：富良野市

令和7年度 取組内容

- ・ R7年度においては、継続実施している発電機、排水ポンプなどの配置計画について再確認及び資機材の機能点検や堤内排水路の継続的な整備を実施しつつ、土嚢作成訓練を継続し「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」の推進を図った。



次年度に向けた予定 など

- ・ 発電機、排水ポンプなどの配置計画について再確認及び資機材の機能点検
- ・ 堤内排水路の継続的な整備
- ・ 土嚢作成訓練の継続
- ・ 田んぼダムに関する取組みの継続 など

「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

	流域治水プロジェクト2.0	概ね5年で実施する取組について
対策区分	被害の対象を減少させるための対策	平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項
対策内容	風水害対応タイムラインの確認	

実施主体：富良野市

令和7年度 取組内容

・令和7年度「富良野市防災訓練」を実施して災害時における指揮・対処能力の向上及び地域住民の避難行動を訓練し、災害対処能力の向上をい図るとともに、地域住民に対して6回の出前講座を実施して風水害に関わる講話を実施するとともに、7校の小・中学校の生徒を対象とした一日防災学校を支援して防災意識の高揚を啓発

実施内容



実施内容



次年度においても、風水害に係る被害軽減の一環として、出前講座の実施及び一日防災学校を支援して防災講話等により防災意識の啓発を図るとともに、R7富良野市防災訓練を実施して災害対処能力の向上を図る。 | |

「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

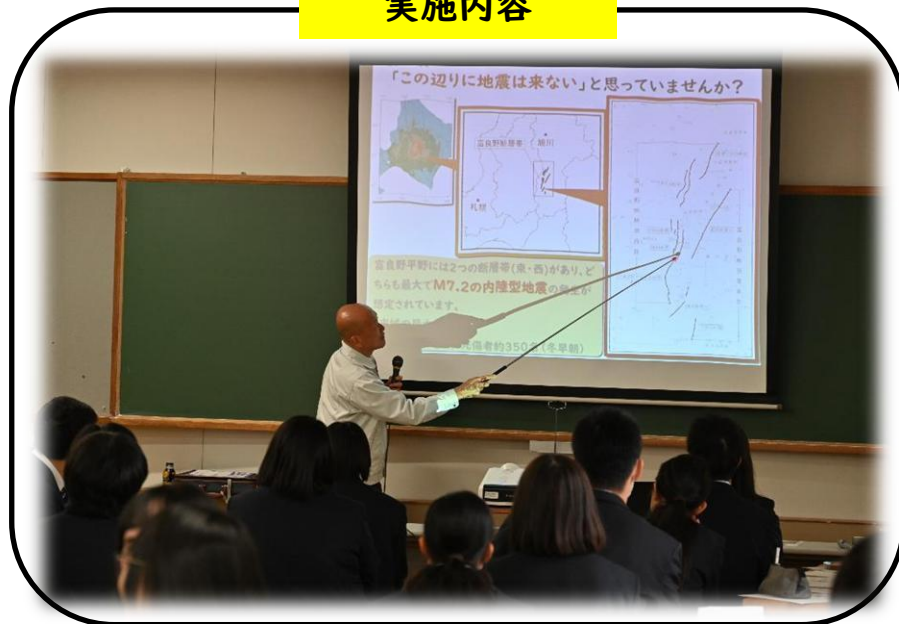
	流域治水プロジェクト2.0	(概ね5年で実施する取組について)
対策区分	被害の対象を減少させるための対策	平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項
対策内容	風水害対応タイムラインの確認	

実施主体:富良野市

■令和7年度 取組内容

・令和7年度「富良野市防災訓練」を実施して災害時における指揮・対処能力の向上及び地域住民の避難行動を訓練し、災害対処能力の向上をい図るとともに、地域住民に対して6回の出前講座を実施して風水害に関わる講話を実施するとともに、7校の小・中学校の生徒を対象とした一日防災学校を支援して防災意識の高揚を啓発

実施内容



実施内容



次年度においても、風水害に係る被害軽減の一環として、出前講座の実施及び一日防災学校を支援して防災講話等により防災意識の啓発を図るとともに、R7富良野市防災訓練を実施して災害対処能力の向上を図る。

上富良野町

「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

	流域治水プロジェクト2. 0	(概ね5年で実施する取組について)
対策区分	被害の対象を減少させるための対策	平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項
対策内容	・防災士スキルアップ研修会、出前講座など、防災教育の取り組みを実施 ・防災行政無線デジタル化、防災ガイドブックの作成など、防災対策の取り組みを実施	

実施主体：
上富良野町

■令和7年度 取組内容

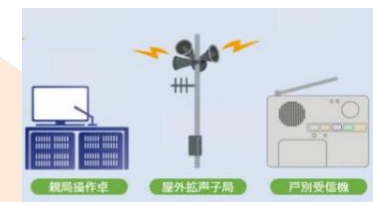
・R7年度においては、継続実施している防災士スキルアップ研修会や出前講座など、防災教育の取り組みを実施した。また、防災行政無線のデジタル化や防災ガイドブックの作成など、住民周知を目的とした防災対策の取り組みを実施した。

【防災教育の取り組み】

- 防災士スキルアップ研修会
講演と救急救命講習(7/27 参加者12名)
- 出前講座
住民会、学校、民間施設などに対する防災講座
(5回開催、延べ366名参加)

【防災対策の取り組み】

- 防災行政無線デジタルR5から運用
親局、子局、戸別受信機
移動系無線(車載型、携帯型)
- 防災ガイドブックの作成
R6から配布開始



次年度以降も継続し、住民を対象とした防災教育の取り組み、防災行政無線や防災ガイドブックの整備を行う。

中富良野町

「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

	流域治水プロジェクト2. 0	概ね5年で実施する取組について
対策区分	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤等の整備
対策内容	水防活動等の迅速化、水害対策に活用出来るハードの整備	

実施主体：
中富良野町

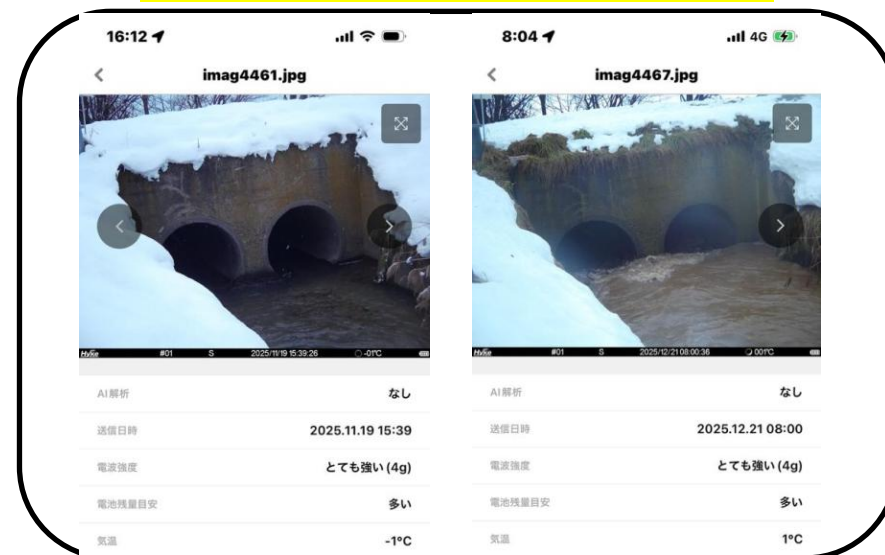
■令和7年度 取組内容

町内の小中河川及び内水の氾濫発生状況を迅速に把握し、町内の河川パトロールを適切に実施するため、国土交通省のワンコイン浸水センサー実証実験に参加するとともに、河川監視用カメラの設置について検討中です。

ワンコイン浸水センサー実証実験



河川監視用カメラの設置



次年度に向けた予定

・実証実験への参加成果により、令和8年度以降の本格的な運用について検討します。

南富良野町

「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

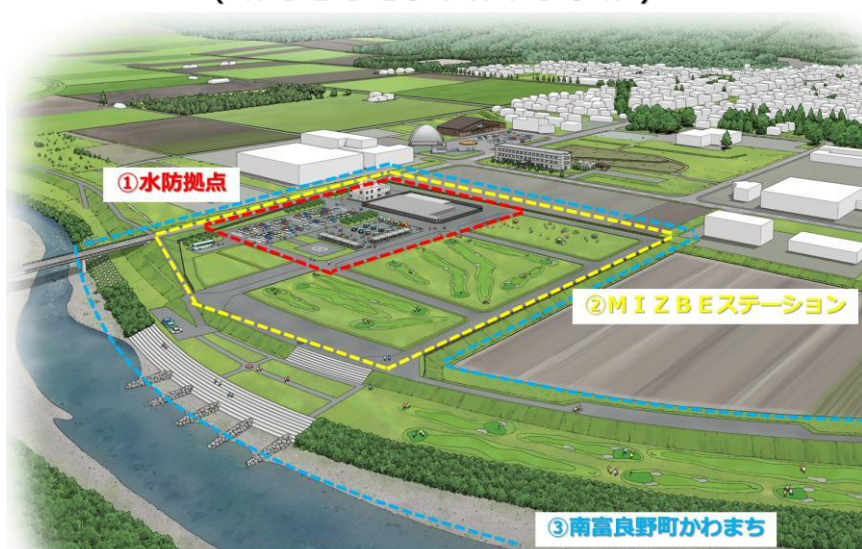
	流域治水プロジェクト2. 0	概ね5年で実施する取組について
対策区分	被害の対象を減少させるための対策	
対策内容	河川防災ステーション(MIZBE STATION)の整備着手	

実施主体：南富良野町

■令和7年度 取組内容

- ・ R7年度においては、用地造成と並行して河川防災ステーション建屋の建設に着手、R8秋頃に予定する水防拠点機能の供用開始に向け、整備事業を推進中。

河川防災ステーション (M I Z B E S T A T I O N)



防災機関の活動拠点 「ステーション建屋」



- ・ 1階：事務室、展示ロビー、トイレ、シャワー室、防災資機材庫（国、町）
- ・ 2階：現地災害対策室（国）、水防団員待機室（町）、展望フロア、太陽光発電パネル
- ・ 屋上：非常用電源、自衛隊通信アンテナ架台（2組）、アンテナ張線アンカー（同）

R8年度内における水防拠点機能の供用開始に引き続き、「防災ステーション」～「かわまち」への整備を進め、平常時と災害発生時いずれの場面においても有効に機能し、活用し得る施設をの完成を目指す。

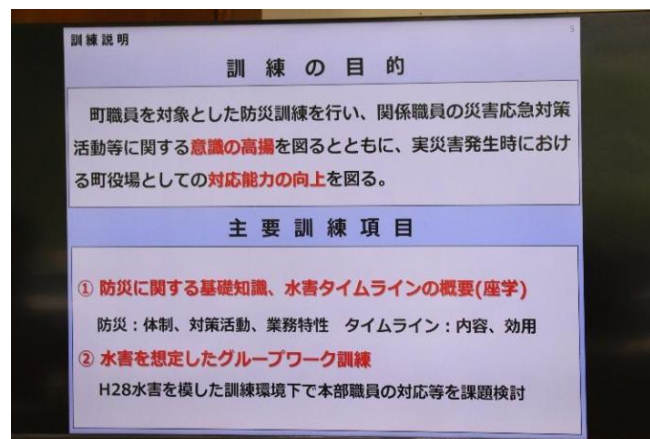
「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

実施主体：南富良野町

	流域治水プロジェクト2. 0	概ね5年で実施する取組について
対策区分	被害の対象を減少させるための対策	平時における職員の教育・訓練に関する事項
対策内容	水害タイムラインへの習熟と運用を主眼とした職員参加防災訓練(災害対策本部訓練)	

■令和7年度 取組内容

毎年度、出水期前に実施中の職員訓練に関し、H28水害後に入庁の若手職員を対象として「水害タイムラインの概要教育」、係長級以上の職員を対象として「水害想定下のGpワーク訓練(タイムラインの活用を含む)」を行い、タイムラインに対する理解・再確認と職員の防災力の向上を図った。



次年度に向けた予定

職員を対象とした防災訓練は、災害対策本部の運営や応急対策活動の場を主体とし、訓練の主眼や訓練項目を各年度ごと様々に選定して行うことにより、職員各自の総合的な防災力の向上を目指している。

「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

実施主体：南富良野町

	流域治水プロジェクト2.0	概ね5年で実施する取組について
対策区分	被害の対象を減少させるための対策	平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項
対策内容	住民参加の地区防災訓練	

■令和7年度 取組内容

5年で一巡することを基本として毎年計画的に実施している住民参加の地区防災訓練を行い、避難広報、避難行動、避難所内での訓練（講話、備蓄資器材取扱い、避難所運営ゲーム）を通じて住民の防災意識の高揚と地域の防災力の向上を図った。



次年度に向けた予定

住民参加の防災訓練については、コロナ禍の最中においても、蔓延防止の処置を講じつつ中止することなく継続実施してきた事業であり、その時々々の環境特性にマッチした内容を選定することで、住民の意識高揚効果が高いことから、引き続き創意を凝らして訓練の積み上げを推進する。

「減災対策協議会」・「流域治水協議会」のフォローアップ様式

	流域治水プロジェクト2.0	概ね5年で実施する取組について
対策区分	被害の対象を減少させるための対策	平時からの児童・生徒への教育・訓練に関する事項
対策内容	小・中・高校における防災学習の実施	

実施主体：南富良野町

■令和7年度 取組内容

小・中・高校の児童・生徒を対象とした防災学習(一日防災学校を含む)に関し、「知る。考える。実践する。」をキーワードとし、それぞれの成長に合わせ段階的で一貫性がある体系的な教育を目指し、各校の担当教諭等と綿密な打ち合わせを行いつつ実施中。



次年度に向けた予定

引き続き、一貫性ある防災教育の実施を追求しながら事業を継続する。